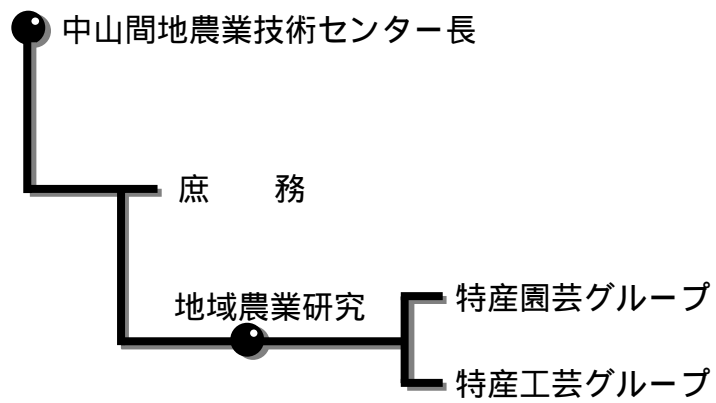


VII 中山間地農業技術センター

組織構成図



目 次

| | | |
|-----|----------------|---------|
| 1 | 研究概要 | |
| (1) | 研究課題及び調査事業一覧 | VIII- 3 |
| (2) | 研究成果及び調査事業概要 | VIII- 4 |
| 2 | 研究成果 | |
| (1) | 新技術情報 | |
| ア | 普及に渡した技術情報 | VIII- 6 |
| イ | 研究成果情報 | VIII- 6 |
| (2) | 研究発表 | |
| ア | 学会誌等投稿 | VIII- 6 |
| イ | 講演発表 | VIII- 6 |
| 3 | 技術援助及び行政対応活動 | |
| (1) | 指針及び行政関係資料の執筆 | VIII- 7 |
| (2) | 成果発表、研修会、関係会議等 | VIII- 7 |
| (3) | 農業大学校 | VIII- 7 |
| (4) | 農業技術学院 | VIII- 7 |
| (5) | その他講師派遣 | VIII- 7 |
| (6) | 研修生受け入れ | VIII- 7 |
| 4 | 総務報告 | |
| (1) | 施 設 | VIII- 8 |
| (2) | 事業予算 | VIII- 8 |
| (3) | 職員一覧 | VIII- 8 |
| (4) | 職員の異動 | VIII- 8 |
| (5) | 購入研究備品及び施設建設 | VIII- 9 |
| (6) | 派遣研修者 | VIII- 9 |
| (7) | 参観者数 | VIII- 9 |
| (8) | 無体財産権など | VIII- 9 |
| (9) | 栄 誉 | VIII- 9 |
| 5 | 気 象 | VIII-10 |

1 研究概要

(1) 研究課題及び調査事業一覧

| 予算区分 | 課 題 名 | 年 次 | 分 担 |
|------|----------------------------------|---------|------|
| 県特 | (1) 中山間地向け新規特産作物の高付加価値化技術の確立 | 平 10～12 | |
| | 801 ア オヤマボクチの大量増殖と収量の安定化 | 〃 | 特産園芸 |
| | 802 イ こうぞの新系統 10a 1 t 穫りの高品質安定生産 | 〃 | 特産工芸 |
| | 803 ウ ジネンジョの本来の形質と業務向けの明確な系統区分 | 〃 | 特産園芸 |
| 受託 | 804 エ シシトウ、モロヘイヤ、カリフラワーの作型確立 | 〃 | 〃 |
| | 805 (2) 桑系統適応性検定試験 | 平 7～16 | 特産工芸 |
| 經常 | (3) 中山間地における花き球根の作型と栽培技術の確立 | 平 10～12 | |
| | 806 ア 新規切り花エレムルスの生育特性の解明 | 〃 | 特産園芸 |
| | 807 イ ササユリの生育特性の把握 | 平 10～11 | 〃 |
| | 808 ウ ヒマワリの作型前進と省力化栽培技術の開発 | 平 10 | 〃 |
| 經常 | (4) 「まゆ」の高付加価値生産 | 平 7～12 | |
| | 809 ア シルクフラワー等多面的利用に供する生産技術 | 〃 | 特産工芸 |
| | 810 イ 水稻育苗器利用による稚蚕の簡易飼育 | 平 10～12 | 〃 |
| 經常 | (5) 地域特産野菜等の研究開発 | 平 9～12 | |
| | 811 ア 赤ずいきの品質と単収要因の解明 | 平 10～12 | 特産園芸 |
| | 812 イ 銀山ブキの特性把握と根茎からの増殖 | 平 10～12 | 〃 |
| | 813 ウ ハーブの中山間地適応性 | 平 9～10 | 〃 |
| | 814 エ ワラビの早期出荷のための根株養成 | 平 9～12 | 〃 |
| | 815 オ 良質な堆肥の野菜に対する連用効果 | 平 9～12 | 〃 |
| | 816 カ 未利用桑園の樹陰を活用した山菜類の高品質化 | 平 10 | 〃 |
| 經常 | (6) 特産果実類の中山間地適応性 | 平 6～16 | |
| | 817 ア イチョウの多雪地向き整枝法の検討 | 〃 | 特産園芸 |
| | 818 イ イチジクの多雪地域での栽培技術の確立 | 〃 | 特産園芸 |
| | 819 ウ ブルーベリー等の中山間地における品種の比較 | 平 9～16 | 〃 |
| 經常 | (7) 薬草類の簡易省力栽培技術の体系の確立 | 平 7～12 | |
| | 820 ア センキュウの病害発生防止法 | 平 9～12 | 特産工芸 |
| | 821 イ ミシマサイコの播種量と生育 | 平 10～12 | 〃 |
| | 822 ウ キハダの栽培育成 | 平 7～12 | 〃 |
| | 823 エ オウレン等の栽培環境の把握 | 平 7～12 | 〃 |

(2) 研究成果及び調査事業概要

(大塚)

801 オヤマボクチの大量増殖と収量の安定化

(宮澤・長谷川)

種子を湿った状態で2で保存すると発芽率は向上し、大量育苗が可能である。しかし、定植地の排水が相当良好でないと、活着後にも枯れる株が多発する。ちなみに暗きよの有無で枯死株率をみると、有りて10%以下に対し、無しで100%に近く、育苗方法を含めて大量増殖体系を再検討する。

802 こうぞの新系統 10a 1 t 穫りの高品質安定生産

(吉原)

苗木を早期に安定供給する方法として、15 設定温室内でジフィーポットに赤土とモミガラを7:3に混ぜ、古糸の中～基部を用いると良い。系統は県内外から優良系統とされている8系統を収集した。和紙原料としての1次収量は、小国アカソ、富山野積が高いがさらに黒皮、白皮としてデータを整理中。

803 ジネンジョの本来の形質と業務向けの明確な系統区分

(大塚)

県内各産地で栽培されている系統を供試し、本県登録品種瀬越2号、石川県の森本イモ等との比較をみた。瀬越2号の草勢は強く、森本イモはナガイモに近い。他の系統では湯之谷産の中に粘度の強いものがみられた他は明らかでない。今後自生系統からの選抜へ切り換える。

804 シシトウ、モロヘイヤ、カリフラワーの作型確立

(宮澤)

シシトウの種子1本仕立ては、露地でも25%増収し、風害も受けなかった。モロヘイヤの早期播種限界を、花芽分化と日長の関係から4月中旬とした(平10成果)。カリフラワーの10月上旬収穫向け品種としてNA-11の有望性を認めつつある。

805 桑系統適応性検定試験

(吉原)

国等で育成中の系統について、多雪地での適応性をみた。供試2系統とも対照ゆきあさひに比し、優る点は現在見当たらない。

806 新規切り花エレムスの生育特性の解明

(大塚)

供試品種はロマンス(ピンク)、バンジー(黄)、アプリコット(オレンジ)等の4品種。萌芽は4月上旬で開花はロマンスが5月27日、その他は6月2日、各花色を確認し、抑制へ向け冷蔵中。

807 ササユリの生育特性の把握

(大塚)

組織培養された球根の、球周別生存率をみたが、個体間差が大きく、球周と生存率は比例しない。肥大率は3~5cm球が良かった。

808 ヒマワリの作型前進と省力化栽培技術の開発

かがやきを用い、5月11日に播種すると採花時期を8月3~11日に延長でき、前年までの前進作型と組み合わせ、国補のフォローとした。

809 シルクフラワー等多面的利用に供する技術

(吉原)

大型のシルクフラワーなど、工芸品に供される原料としての紙状の繭を、簡易に作成できる装置を考案し実用化した。蚕の自重を利用した回転板で角度や熟蚕後の乗せる時間、頭数がポイントとなる。本技術は県職務発明として特許申請中である。

810 生産地でのガスによる殺蛹保管技術

養蚕業の衰退から課題変更し、水稻育苗器利用による簡易な稚蚕飼育法を検討した。標準の人工飼料飼育に比して不揃いとなりやや減蚕するが、飼育は可能であった。

811 赤ずいきの品質と単収要因の解明

(宮澤)

能生町在来と小千谷市在来の系統比較を試みた。赤色の強さに系統差は認められず、定植位置が畦の中央部だと色が薄くなることから、栽植密度や様式に手掛かりをつかんだ。

812 銀山ブキの特性把握と根茎からの増殖

(宮澤)

平成9年7月中旬採取し養成後11月下旬に山形県の京ぶき、川口町自生の野ぶきと共に未使用桑園へ移植し育成中。

813 ハーブの中山間地適応性

(長谷川)

ラベンダーを中心に、積雪地での適応性をみた。ラベンダーではスーパーセビリアンブルーを始め7品種が耐雪性に優れ、ミント類、カモミールなどは十分に生育する。

814 ワラビの早期出荷のための根株養成

(宮澤)

平成8年10月下旬定植したものを、10月下旬に茎立ち数を調べた。供試した根株の形状別でみると、葉柄基部と根茎に着芽確認のものに差はなく、着芽未確認の根株はこれらの60%であったが、前年より差は縮まった。

815 良質な堆肥の野菜に対する連用効果

(長谷川)

各種微生物を添加して完熟させた堆肥を作り、7t/10aを昨年に続いて投入し野菜の生育をみた。化成肥料区に比した収量は重量でキャベツが80~30%、ハクサイが50~20%、ニンジンが50~100%となった。

816 未利用桑園の樹陰を活用した山菜類の高品質化

(宮澤)

桑の葉陰は遮光率50%ネットより日射量は1.9倍は高く推移した。ウルイでは遮光ネットより草丈は高く、クサソテツは差が認められず、湿度などの環境条件も影響していると推察される。

817 イチョウの多雪地向き整枝法の検討 (宮澤)

各種整枝方法と耐雪性との関連を確認するため平成7年春に定植し、毎年の生育量を確認しながら養成中である。本年の落葉期は昨年より8日遅く、また、生育量の個体間差が大きい。

818 イチジクの多雪地域での栽培技術の確立

(宮澤)

オールバック及び一文字整枝とする場合の、高さ50cmの柵用資材の耐雪性をみた。48.6mm径の建築足場用パイプを用いた場合、最大積雪深158cmで支柱間隔は140cmでも曲がりはみられない。ただし、沈み込み防止が必要である。また、結果枝の摘心は16~18節が適当とみられた。

819 ブルーベリー等の中山間地における品種の比較

(宮澤)

ブルーベリー・キイチゴ類の開花~収穫期を品種別に把握した。特にキイチゴ類は品種の組み合わせで6月中旬~8月頃までの連続収穫の可能性を見いだし

た。

820 センキュウの病害発生防止法 (吉原)

栽植密度の粗密による葉枯れの差をみたが、差は認められなかった。栽植密度を慣行の550株/aの1/2とすると、調整収量で30%減にとどまり、1株重量は140%と向上した。

821 ミシマサイコの播種量と生育 (吉原)

ミシマサイコの播種量の差は発芽不良が多く判然としない。セルトレイを利用し、12月播種の施設育苗が良さそうである。

822 キハダの栽培育成 (吉原)

平成4年11月定植で生育量を継続して把握している。胸高周で毎年6~8cm、樹高で毎年およそ1m高くなっている。

823 オウレン等の栽培環境の把握 (吉原)

地上部生体重は、遮光ネット>クヌギ林>杉林で前年と同様であったが、地下部生体重は遮光ネットとクヌギ林が逆転してきた。

2 研究 成 果

(1) 新技術情報

ア 普及に渡した技術情報

| No. | 成 果 名 | 担 当 |
|-----|--|-------------------|
| 1 | 【活用技術】 オリエンタル系ユリの芽伸ばし処理による高温期抑制栽培の切り花品質向上技術 | 園芸研 栽培・施設科 中山間 |
| 2 | 多雪中山間地に導入し得るアスター、ヒマワリの新作型 | 中山間 |
| 3 | エチレンオキサイドガスの排ガス処理による安全性と繭の長期保存技術 | 中山間 |

イ 研究成果情報

(ア) 新潟県農業総合研究所研究情報

| No. | 成 果 名 | 担 当 |
|-----|-----------------------|------------|
| 1 | 水田法面用保護植物として有望なイワダレソウ | 中山間 高冷地 |

(イ) 北陸農業研究成果情報

| No. | 成 果 名 | 担 当 |
|-----|---|------------------|
| 1 | 【普及】 ゼンマイ山採り小株養成時の遮光及び堆肥多投の初期収量への効果 | 中山間 |
| 2 | タラノメ促成栽培におけるアカメ及びシロメの発生要因と防止法 | 中山間 |
| 1 | 【指導】 積雪中山間地域のユリ切花経営におけるウルイ促成栽培を導入した周年型複合経営 | 農総研 基盤研究部 中山間 |
| 1 | 【研究】 水田法面用保護植物として有望なイワダレソウ | 中山間 高冷地 |

(2) 研究発表

ア 学会誌等投稿
なし

イ 講演発表

| 発 表 題 名 (発 表 者 名) | 学 会 ・ 研 究 会 名 (掲 載 誌 名 等) | 開催年月日 |
|-------------------------------------|--------------------------------|-----------|
| 山菜類の高品質生産を目指した新しい増殖・栽培技術 (長谷川英二) | 平成10年度北陸地域研究成果発表会 (同講演要旨) | 平10.10.28 |

3 技術援助及び行政対応活動

(1) 指針及び行政資料の執筆

| 発行誌名 | 発行者 | 発行年月 | 執筆者 |
|----------------------|-------------|--------|--------|
| 山菜類 最新研究ガイド | 新潟県農業総合研究所他 | 平 11.1 | 長谷川英二他 |
| 景観・グランドカバー・ハーブ 植物の活用 | 新潟県農業総合研究所 | 平 11.3 | 野本知男 |

(2) 成果発表会、研修会、関係会議等

| 会議名等 | 期日 | 場所 | 参集者等 | 対応者 |
|-----------------------|---------------|-------------|------------------|--------|
| 地域基幹現地実証検討 | 平 10.5.13 | 堀之内町 | たらの芽組合他 | 長谷川英二 |
| 〃 | 平 11.1.29 | 〃 | 〃 | 長谷川英二 |
| 地域基幹推進会議 | 平 10.10.12～13 | 蓬平町 | 北陸農試・山形・富山・山梨 | 長谷川英二他 |
| 地域基幹推進会議 | 平 11.2.25～26 | 湯沢町 | 北陸農試・山形・富山・山梨 | 長谷川英二他 |
| ジネンジョ検討会 | 平 10.8.28 | 当センター | 生産者・関係普及所・園芸流通課 | 大塚英昭他 |
| ジネンジョ検討会 | 平 10.12.14 | 当センター | 生産者・関係普及所・園芸流通課 | 大塚英昭 |
| 園芸関係試験研究発表会 (農総研) | 平 11.3.17 | 県央メッセ ピア | 普及センター・市町村・J A 他 | 宮澤寛和 |
| 園芸複合推進研修会(園 芸・流通課) | 平 11.3.17 | 県央メッセ ピア | 普及センター・市町村・J A 他 | 吉原常男他 |

(3) 農業大学校
なし(4) 農業技術学院
なし

(5) その他講師派遣

| 年月日 | 主催者 | 行事 | 内容 | 講師 |
|------------|--------------|------------|-----------|-------|
| 平 10.7.28 | 野菜専門技術員 | 三魚沼技術向上研修 | 特産野菜の研究紹介 | 宮澤寛和 |
| 平 10.9.10 | 県薬草振興協議会 | 薬草研修会 | 薬草生産振興 | 吉原常男 |
| 平 10.9.28 | 三古農業改良普及センター | 山内原現地検討 | 山菜の技術対策 | 長谷川英二 |
| 平 10.11.4 | 堀之内町たらの芽組合 | 圃場巡回 | 今後の生産対策 | 長谷川英二 |
| 平 10.12.9 | 県ジネンジョ生産協議会 | ジネンジョ品評会 | 研究成績の報告 | 大塚英昭 |
| 平 11.1.25 | 魚沼園振協 | ユリ研修会 | 研究成績の報告 | 大塚英昭 |
| 平 11.2.12 | 川口町 | 農業振興協議会 | 特産物の導入方法 | 長谷川英二 |
| 平 11.3.9 | 魚沼園振協北魚沼支部 | 園芸生産総合反省会 | 特産物研究の紹介 | 長谷川英二 |
| 平 11.3.2～3 | 朝日村繭の花の会 | シルクフラワー検討会 | 平面絹作成講習会 | 大淵昇 |
| 平 11.3.16 | 園芸・流通課 | 繭ブランドフォーラム | 多面的な繭の利用 | 吉原常男 |

(6) 研修生受け入れ
なし

4 総務報告

(1) 施設

所在地 新潟県北魚沼郡川口町牛ヶ島135-1
 建物面積 4,272 m² (2,526 m²)
 圃場面積 畑5.8 ha

(2) 事業予算

(単位：千円)

| 科 目 | 予算額 | 財 源 | | | | 一般財源 |
|----------------------|---------|---------|-----|------|-----|---------|
| | | 国補 | 手数料 | 財産収入 | その他 | |
| 運営費 | 5,743 | | | | 19 | 5,724 |
| 管理費 | 8,107 | | | | | 8,107 |
| 圃場管理費 | 2,876 | | | | | 2,876 |
| 経常研究費 | 3,820 | | | | | 3,820 |
| 受託費 | 218 | | | | | 218 |
| 特別研究費Ⅰ | 1,493 | | | | | 1,493 |
| 特別研究費Ⅱ | 590 | | | | | 590 |
| 研究器材購入費 | 2,910 | | | | | 2,910 |
| 国庫補助 | 3,670 | 1,835 | | | | 1,835 |
| ・地域基幹農業技術体系化 促進事業 | (3,670) | (1,835) | | | | (1,835) |
| 指定試験研究費(桑系適) | 623 | 623 | | | | |
| 合計 | 30,050 | 2,458 | | | 19 | 27,573 |

(3) 職員一覧

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|-------------------|---------|-------|--------|---------|-------|
| 総務課 (特産工芸) | センター長 | 野本 知男 | (特産園芸) | 専門研究員 | 長谷川英二 |
| | 総務課長 | 須佐 功 | | 研究員 | 大塚 英昭 |
| | 主任 | 高野 利夫 | | 研究員 | 宮澤 寛和 |
| | 運転管理技能員 | 青木 忠 | | 農林水産技能員 | 廣井 伸昭 |
| | 専門研究員 | 吉原 常男 | | 農林水産技能員 | 廣井 一 |
| | 農林水産技能員 | 大淵 昇 | | | |

(4) 職員の異動

| 発令月日 | 転出入 | 氏 名 | 新 所 属・職 名 | 旧 所 属・職 名 |
|----------------|-----|-------|--------------------------|-----------------------|
| 平成10年 4月1日付 | 転 出 | 渡邊 勸 | 北蒲原農業改良普及センター 主任改良普及員 | 主任研究員 |
| | 転 入 | 大塚 英昭 | 研究員 | 岩船農業改良普及センター 改良普及員 |
| 平成11年 3月31日 | 退 職 | 野本 知男 | | センター長 |

(5) 購入研究備品及び施設建設

| 備品・施設名 | 型式・規格・規模 |
|----------------|---|
| (備 品) 実体顕微鏡 | オリンパス SZX9-3112 2分岐ライトガイド LG - D1 |
| 蒸し器 | 全自動写真撮影装置 DM20 - II |
| (施設建設) | ステンレス SUS304、 650×1500 mm、ガスバーナー装置共 なし |

(6) 派遣研修者

なし

(7) 参観者数

| 農業者 | 行政関係 | その他 | 合 計 |
|-----|------|-----|-----|
| 484 | 184 | 122 | 790 |

(8) 無体財産権など

なし

(9) 栄 誉

該当者なし

5 気 象

観測場所：農業総合研究所・中山間地農業技術センター

(北魚沼郡川口町牛ヶ島 135 - 1、北緯 37 度 17 分、東経 138 度 51 分、標高 135m)

平年値：昭 59～平 9 の平均値、積雪深だけは昭 45～平 9・平 10 の平均値

(1) 月別気象

| 月 | 平均気温() | | 最高気温() | | 最低気温() | | 降水量(mm) | | 日照時間(hr) | |
|----|---------|------|---------|------|---------|------|---------|--------|----------|--------|
| | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 |
| 1 | 0.0 | -0.2 | 2.7 | 2.8 | -2.3 | -3.1 | 432.0 | 446.3 | 29.8 | 47.8 |
| 2 | 0.8 | 0.0 | 5.1 | 3.5 | -2.8 | -3.2 | 217.5 | 293.1 | 70.1 | 67.9 |
| 3 | 3.5 | 2.9 | 8.8 | 7.2 | -0.8 | -1.1 | 154.0 | 186.0 | 125.1 | 109.3 |
| 4 | 12.8 | 9.1 | 18.5 | 15.2 | 8.0 | 3.4 | 139.5 | 105.4 | 91.0 | 163.3 |
| 5 | 17.5 | 15.1 | 23.2 | 21.2 | 12.0 | 10.0 | 178.5 | 128.9 | 186.6 | 161.1 |
| 6 | 19.4 | 20.3 | 23.8 | 25.0 | 16.1 | 15.9 | 94.5 | 166.0 | 69.4 | 122.7 |
| 7 | 23.9 | 24.0 | 28.9 | 28.3 | 19.9 | 20.0 | 174.0 | 238.5 | 115.3 | 131.1 |
| 8 | 23.4 | 25.7 | 27.3 | 30.7 | 20.7 | 21.2 | 425.5 | 150.6 | 73.7 | 186.0 |
| 9 | 21.7 | 20.8 | 26.5 | 25.2 | 18.0 | 16.8 | 167.0 | 169.1 | 115.1 | 116.2 |
| 10 | 16.0 | 14.4 | 21.1 | 19.1 | 12.4 | 10.1 | 145.5 | 183.4 | 99.7 | 120.6 |
| 11 | 7.6 | 8.4 | 12.7 | 13.0 | 3.8 | 4.1 | 401.0 | 259.4 | 82.0 | 88.4 |
| 12 | 3.5 | 2.9 | 7.4 | 6.5 | 0.4 | -0.3 | 315.5 | 369.5 | 42.8 | 65.6 |
| 年計 | 12.6 | 12.0 | 17.2 | 16.5 | 8.9 | 7.8 | 2844.5 | 2696.2 | 1100.6 | 1380.0 |

(注) 1 気温、積雪深については平均値、降水量、日照時間については合計値である。

2 気温は白金抵抗温度計、降水量は融雪溢水式転倒降雨樹、日照時間は太陽電池式日照計で測定した。

3 昭和 58 年に新太陽電池式を設置しての日照時間の出力にしたことにより平年値は昭和 59 年から統一した。

(2) 雪の総括

平年値：昭 45～平 9 の平均値

| 初雪月日 | | 終雪月日 | | 根雪初日 | | 根雪終日 | | 根雪日数(日) | | 最深積雪(cm) | | 同左月日 | |
|-------|-------|------|-----|-------|-------|------|------|---------|-----|----------|-----|------|------|
| 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 |
| 11.18 | 11.17 | | 4.4 | 12.30 | 12.17 | | 4.15 | | 120 | 219 | 235 | 2.15 | 2.11 |